



# ほんごう一彦 県政報告 (平成28年5月)

(発行)自由民主党県議団松本第2支部

長野県松本市小屋南1-12-7

TEL: 0263-85-5153, FAX: 0263-85-5160

http://h-kazuhiko.jp

## 第15回 都道府県議会議員 研究交流大会

### 議会人の、議会人による、議会人のための研究集会

### ～ 真の地方自治を目指して～ (後編)

地方創生と議会の役割についてパネリストとして発言!



大社先生から観光面についてお話しいただいたものを、私から先生のお話に共感しながらお話ししていきたいと思うんですけれども、つまり観光とまちづくりの共有ということ、全国にすばらしい都市はいっぱいございますけれども、例えば湯布院ですね。湯布院は、今、年間400万人くらい来ているようでございますし、あるいは津和野とか、岐阜県の高山とか、あるいは先日、初めて角館へ行つてまいりました。つまり、まさに観光とまちづくりが完全に一体になっております。去年、道後温泉に視察に行きましたら、商店街連盟と温泉が完全に一体化しまして、非常にコンパクトですけれども、非常に質感の高いまちづくりがここ何年かできていました。

今度リニアがいよいよ名古屋と品川を結ぶわけですが、飯田市になりませうけれども、飯田市と品川が20分、名古屋

と品川が40分ということになり、そういうときに、私も地方創生において考えなければいけないのは、まちづくりをするのに潜伏期間が、高山でも大体15年、ほかのところも大体15年から20年かかっているわけで、つまり、今度の地方創生戦略というものは5か年計画であります、もうちよつと長いスパンで日本の国づくりというものは、あるいは地域づくりというものをしなければいけないと、こういう感じを持っておりまして、いざいざにしても、その地域における物語性、ストーリー性、あるいは歴史とか伝統とか文化というものが複合的に加味されないと、まちの本当の魅力が出てこない。そういう意味で、先生のさらなるご解説をいただければと思います。

実は、三菱リージョナルジェットがいよいよティクオフ、大成功いたしました。あれは実は1500メートルでティクオフできるわけなんです。長野県には、唯一松本に2000メートルの空港があつて、国内線でやっておりますが、観光戦略としましては、三菱リージョナルは航続距離が約3500キロぐらい、時速800キロから900キロということ、あと2500時間間の耐久テストを受けて、2年後にマーケットに出てまいります。

そういう意味から、私が申し上げたいのは、最大限、

高雄、台北、上海、北京、仁川、ウラジオストク、ハバロフスクまで行けます。したがって、攻める観光ということにおいては、信州まつもと空港を国際空港化にすべく、今、県当局はかなり緻密に、私もその真ん中におりますけれども、詰めております。エンブレムも、ブラジルのE2型というのをつくっておりますが、いざいざにしても、日本の航空産業が、航空機というのには約100万個の部品があるわけでありまして、したがって、ご関係の県の先生方も多いと思えますけれども、航空宇宙クラスター構想を各県が打ち立てております。こういうものが好循環にかみ合えば、ロボットや人工知能や航空機、その他テクノテク、言えば切りがございませぬが、次世代産業というものをきちんと育てていかなければいけない。

それからもう1点、これは産業面でございまして、健康、長野県と松本が経済産業省のヘルスバレー構想、あるいはヘルスラボ、これが採択をされました。特に松本市は、健康寿命延伸都市という、ちよつと分かりにくい言葉でございますけれども、これが首長の最大の理念としてやっております。松本市35ブロック、大きなブロックの中に公民館と福祉施設を複合的にハードを全部そろえました。

そういう意味において、これから健康長寿が国策としても地方行政としても最大の問題でございますから、それに絡めて、特養、老健、あるいはケアハウス、その他もろもろ高齢者向け住宅、あるいはデイサービス、それから、今、皆さんご専門の地域包括ケアシステムをいかに具現化していくかと。これは机上プランとしては非常にいいんですが、開業医の先生や看護師の先生方、施設から在宅への理念の転化でございまして、こういうものも今、ヘルスバレー構想の中として全力で具現化するようにしているというのが長野県の現状でございます。

大阪の大先生からご指摘いただきました、1点は、経済財政諮問会議がそういう役目があつて、今、一定の存在感がなくなつてきて、先ほどの先生のお話の中、国と地方の協議の場、これは実は官邸で地方六団体がイーブンの関係で話をするわけなんです。したがって、政策問題を含めてこの機能を相当強く言わなければいけない。したがって、知事あるいは市町村長、そういう地方六団体が来ておりますので、少し現実的な話として活用していくことが、実際問題として、政治的な現実とすれば、官邸におけるその機能をより一層、先生の政治力で活用していただければと、このように思うところでございます。

それから、根源的には、地方交付税は戦後、シャウプ博士が、シャウプ勧告によつてやつて、あまりにも日本が疲弊して、びつくりしまして、地方交付税というものを、全く新しいシステムを日本に導入して、今日の日本の繁栄の基盤をつくったことは先生ご承知のとおりでございます。

しかし、もう一步、今の先生のお話を進めますと、税制改革の問題になつてまいりますので、国と地方、あるいは財務当局等々の全体のバランスの中でどうしていくかというような問題が出てきますが、政治は税であるということ、言つた国会議員もおりますが、今の問題は非常に重要でございます。まして、よく地方財政の借金の問題等もあつて、あと裏負担で国で持つからという、臨時財政対策債の問題等も含めて、もう一度地方に財源がより豊かになるように持つてくるのが一番大事であつて、首都圏は首都圏としての悩みがあることは十分承知してはおりますが、今の状況が続けば、かつて3割自治と言われた日本の自治が、長野県におきましても、一般会計で約9000億前後から1兆円近いんです。0億でございます。他県も多分同じだと思います。そういう中において、根源的な税制改革というものをやらなければいけない。

(裏面へ続く)

# 第15回都道府県議会議員研究交流大会（続き）

（表面の続き）

それと同時に、今、先生のおっしゃるとおり、対応としては、国と地方の協議の場、これはかなり影響力が出ます。ですから、長野県に限らず、農業のTPPの問題も大変重要な問題であります。余分なことでもございますけれども、欧米は安全保障の観点からは、1点は食料です。これはご承知のとおり39%、今、下がりがつありあります。エネルギーが自給率5%、防衛問題は言うまでもございせん。ですから、そういう意味において、実は欧米は大体所得の8割ぐらいがいろんな引き出しから来た税金で対応しているんです。しかし、それは内在化しております。表面には出てきません。それで、年次改革要望で毎年アメリカから日本にいろんな要望が来ておりますが、そういう問題とも微妙に絡んでおります。私も主権国家として真に日本の統治機構をどうするかということにおいては、今、先生が指摘のとおり、地方の自立性を担保するための新たな税制の枠組みというものを、まさに真の地方分権のために努力するのが僕らの責務じゃないかと、こういう認識を持っております。

規制改革、コンサバティブな立場で言いますと、そのバランスが非常に重要で、閉塞感を突破するには特区の意味はあると思ふんです。しかし全体のバランスの中においてどうするかということにおいては、相当各関係者とも協議の場が必要ではないかと。

規制のものを守るとか、そういうことよりも、日本の持っている本當の意味での伝統や歴史や地域の共同体とか、そうしたのもも基盤として、精神構造として持っているものと、グローバルな、中国がシンセンを特区にして、あれがインセンティブ

になつて今日の中国の繁栄があるわけでございますが、現在の中国の状況を見たときに、大変な事態に陥っているわけです。そういう意味においても、先ほどの話を整理しますと、県と市と観光協会とコンベンションビュロー、こういうものが全体に体系的に整理されていないということは事実だと思います。ですから、その辺のところをまずきちんと統一感を持ってやるのが観光施策の上で非常に重要な視点ではないかと、このように思っております。

ちょっと私は違う角度から同様のことを答えたと思いますけれども、地方自治が団体自治で団体法であるという、先ほど先生からのお話がございました。したがって、議会が決めたことが果たして団体意思と言えるかどうかというご意見もいろいろあるというふうに先ほど講師の先生がおっしゃいました。

プラトンの国家論の中で、古代からプラトンは直接民主主義の危機を訴えております。つまり、極めて一時的にモチベーションが上がるんですが、そこに非常に危機が内在しているということとでありまして、そういう意味からいくと、私も議会の果たすべき役割は、一種の代議員制であり、間接民主主義ではありますけれども、議会の持つべき今の役割というのを、単なる熱狂の中だけでやっていくことは極めて危険であります。そういう視点から、専門性あるいは、もっと固く言えば政治理念なり、政治思想なり、政治哲学というものを明確に持って、都道府県議会議員が大変重要な役割の位置付けにしているという、そういう認識を持って、大いに矜持、プライドを持って今後の運営に当たっていただくことが一番大事ではないかと、このように感じております。

## 最近の政務調査レポート



阿部知事と地方創生について意見交換。



平成28年度新体制下における初の各党代表者会議に出席。



イスラエル女性大使と国際交流について意見交換。



陸上自衛隊入隊式にて激励の言葉を述べる。



たかがい恵美子参議院議員と地域医療の充実について意見交換。



21世紀の専門学校の在り方について校長先生と意見交換。



松本サンデーリーグ開幕式にて始球式を行う。



上高地開山祭にて山積する課題について上條実行委員長と意見交換。



中山地区砂防対策について意見交換。